

〔特集〕

先人たちが守り継いだ 新宮町の宝！ 「楯の松原」

ゆるやかな弓なりのカーブを描く海岸は通称「パラソルのふち」ともいわれ、海岸線には歳月を感じさせる松が2キロメートル以上にわたって植えられています。これは17世紀、当時の福岡藩が植林したもので、海風や砂から作物を守る目的から「楯の松原」と呼ばれました。20万本の松苗を植えたという記録もあり、今も守り継がれています。この偉大なる先人たちが守り継いできた楯の松原の大切さについて、改めて考えてみませんか。

○楯の松原とは

新宮海岸に広がった白い砂浜と緑の松原は、福岡市から宗像地区まで続き、美しい景色として玄海国定公園に指定されています。また、この松原は防風、防砂、防潮の役目も果たしているのです。昔から「楯の松原」と呼ばれました。

○楯の松原の歴史

延宝の頃（1673～1681年）から植え始められ、1706年（宝永3年）には20万本の松の苗を植えたと記録されています（福岡藩郡役所記録）。また、1738年（元文3年）には、松原の保護のため、勝手に松の木を切つてはならないな

ど、厳しい決まりが出され、大切にされてきました。

○楯の松原の役割

海に囲まれた日本は、豊富な海産物など海からの恵みを得る一方で、繰り返し塩害や風、砂などの被害に見舞われてきました。海から田畑や家を守る工夫の一つが防潮林といえます。楯の松原も、約40万平方メートルのなかに約10万本の松の木が茂っており、玄界灘から吹きつける冬季の北西の風から田畑や家など新宮町の人々の暮らしを守っています。

※胸高直径10センチメートルの木に換算した体積計算によるものです。

村ノ北ニアリ。
東西十三町。（約1、400メートル）
南北十町三十間。（1、100メートル）
此村海ニ接シ。
北風ニ田圃ヲ傷ヘリ。
故ニ延寶ノ頃。（1670年代）
松ヲ植テ。
風ヲ防キシヨリ。
作毛ノ害ヲ免レタリ。
因テ楯松原ト名ク。

〔福岡縣地理全誌〕より

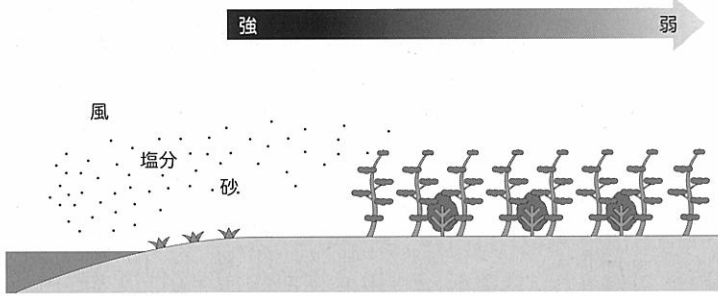
松原は町の大切な財産

古文書によると、松が植えられるまでは、玄界灘から吹きつける厳しい潮風や飛砂によって、作物の収穫ができず、家などは激しく傷み、大変困っていたといわれています。また、落ちた松葉は蒔として燃料にされていたともいわれています。

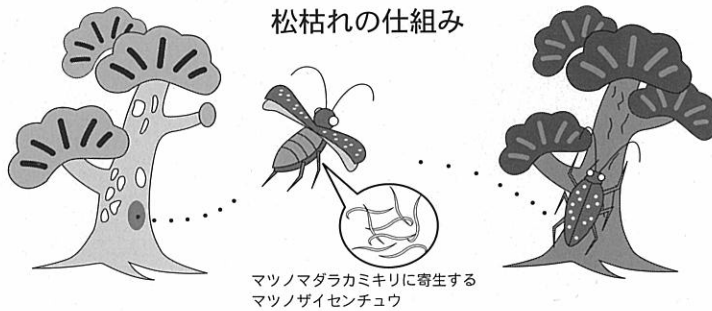
○環境財産

松原は風や砂を止め、田畑や家など人々の生活を守っています。また、地球温暖化防止にも役立ち、希少な海浜植物も多数自生しています。

防潮林の働き



松林は風や塩分を8割カットする効果があるといわれています。



松枯れは「マツノサイセンチュウ」と「マツノマダラカミキリ」が起こします。病気を起こす1ミリにも満たないマツノサイセンチュウは、自分では移動できません。マツノマダラカミキリが運び屋となり、木から木へマツノサイセンチュウを移します。

○健康財産

歩きやすい松原は地域の人たちにとって大切な散策の場です。森林浴効果で身も心もリフレッシュしてくれます。

○観光財産

白砂青松の新宮海岸は、毎年多くの人を訪れる、町の大切な財産です。

松原が今、

危機に瀕している

○松くい虫被害

松は太古の時代からわが国に存在し、人々の生活にとってもなじみのある樹木として、身近な関係を保っています。

きました。この松が、わが国に存在しなかつた松くい虫（マツノサイセンチュウ）の脅威にさらされています。松くい虫被害によって枯れる時期は10月が最も多く、9月下旬から翌年1月に渡ります。

楯の松原も、1970年（昭和45年）頃から松くい虫による被害で、樹齢300年にもなる松が次々に枯れ始めました。被害に遭った松は赤く枯れてしまします。枯れてしまった松は、ほかの松に被害がおよぶ前に伐倒して持ち出すしかありません。

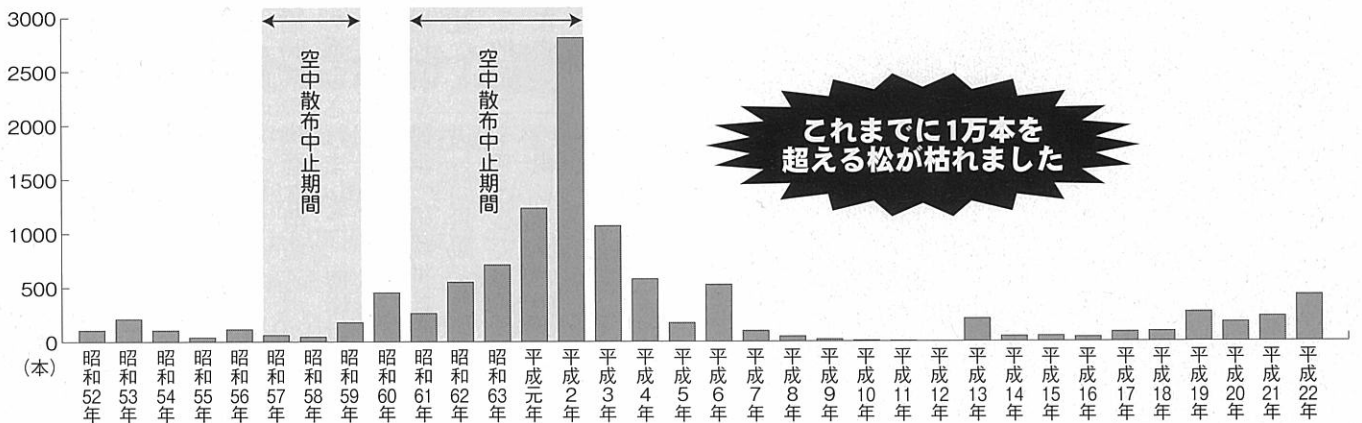
昨年、国有林内で伐倒駆除された松の本数は、町内では428本、県内では19,145本にも上ります。また、近隣の松林では、福岡市東区の奈多海岸で2,800本、福津市の海岸で2,500本もの松が被害を受けました。

○松林火災

この10年間で、松林内の火災が10回も発生しています。幸い大きな火災ではなかったため、甚大な被害は出ていませんが、大きな火災が発生すれば、一瞬にして松原を失ってしまうことになりま。

松林内では、地域の人やボランティアによる見回りや清掃活動などが行われています。これにより、放火などの犯罪抑止や不審火の早期発見など、火災の要因から松が守られています。

国有林内における松くい虫被害による伐倒駆除状況



松原を守り継いでいく！

松原は私たちの生活、文化、産業に深く関わり、白砂青松は日本らしさを示す風景です。また、私たちはこれからも、先人たちが守り継いできた松原とお互いに利益を分かち合う相利共生の生き方「環境共生」をしていかなければなりません。そのためには住民と行政との協働が不可欠になります。

○松くい虫防除

松くい虫被害から松を守るため、町や福岡森林管理署、地域が昭和48年から防除薬の地上散布やヘリコプターによる空中散布、伐倒駆除（枯死した松を伐倒して薬剤散布）を毎年5



▲住民に呼びかけて行っている植樹会



▲松の保全活動について県景観大会で発表する中学生

月から6月にかけて行っています。

○松原の再生・保全

楯の松原を後世に守り継いでいくと「筑前新宮に白砂青松を取り戻す会」（町民公益活動団体）が、松の植樹をしています。これまで11年間で、1万2、500本の松が植えられました。そして、松が健康に成長していくように、松原の清掃や間伐・除伐などの保全活動が行われています。

また、毎年11月の勤マルの日（勤労者一斉ボランティアの日）には、住民参加型の松原の清掃や保全活動を行い、その活動を通じて住民に楯の松原の重要性を伝えていきます。

○松原の次世代への継承

毎年9月頃に、筑前新宮に白砂青

松を取り戻す会により、新宮中学校1年生を対象に、楯の松原の講演会（まちづくり講演会）や松林内の清掃や保全活動（白砂青松タイム）などが行われています。その活動について、今年2月に行われた県景観大会で新宮中1年生が、「これからは松原を守っていくような取り組みを行っていききたい」と発表し、見事「夢景観賞」を授賞しました。

○日本の原風景をいつまでも

3月11日の東日本大震災による大津波で、日本百景、国指定の名勝地であった陸前高田市の高田松原は、松一本だけを残して消滅してしまいました。この奇跡的に生き残った松を「希望の一本松」と名付け、復興のシンボルとしました。この希望の

一本松の後継樹で、今後何百年かかろうと元の美しい松原に戻そうと、松原の再生に歩み出しています。

新宮町の楯の松原も防風、防砂、防潮の役割を果たすとともに、白砂青松を誇る美しい海岸線としてその景観のすばらしさから、平成19年には福岡県の快適な環境スポット30選にも選定されました。海岸は夏には良好な海水浴場として、また海岸一帯は松林や砂浜、磯崎神社や綿津見神社など、美しい景観と歴史が楽しめる散策コースとしても親しまれています。この親しみ深い楯の松原をいつまでも残していきたいものです。

※参考「身近な松原散策ガイド」

（財）日本緑化センター

<http://www.jbgreen.or.jp/>

